行事の意義を考える
季節の行事「重陽の節句」

第１３２号　２０１９年９月９日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社カグヤ　奥山卓矢

９月の室礼

旧暦の九月九日は「重陽の節供」

菊を用いて不老長寿を願うことから「菊の節供」とも言われています。

「重陽の節供」

今回もカグヤクルーの宮前さんに「室礼」について、

インタビューを行いました。

奥山　花器が新しくなりましたね！

宮前　そうなんですね！お稽古に通っている教室で、この花器を欲しい人を募っていて、シンプルでいいなと思い購入しました。

奥山　大きな花器で存在感があります。活ける上で違いはありますか？

宮前　そうですね…ガラスの花瓶とは違う重みを感じます。

かぼちゃ：別称「菊座瓜」
上から見ると菊花のようです！

菊の被綿（きせわた）
一晩、菊に綿をかぶせ、菊の精を綿に移し、この綿で体をぬぐうと、長命を保つことができると信じられていたと伝えられています。

奥山　確かに同じ菊花でも活けられる器によって見え方が違いますね！

宮前　そうなんです。菊は盆花イメージがありますが、菊は日本の国花で高貴な花と言われています。また、菊は他の花に比べてお手入れをしっかりすると、長い間楽しむことが出来るんですよ。

奥山　それは知りませんでした！

宮前　ちなみに、うちの祖母の名前は「菊子」と言うんです。

奥山　繁栄的な意味を込めてつけられたのですかね？

宮前　今となっては直接名前の由来を聞く事は出来ませんが、縁起がいいことからつけられたのだと思います。

奥山　想いを馳せられるのもいいですね。さて、改めてですが「重陽の節供」とは、どういった行事なのでしょうか？

宮前　「重陽の節供」は、平安時代には宮中の行事として、観菊の酒宴が催され、菊酒を飲み、「菊の被綿（きせわた）」といって、前の晩、菊に綿を被せておき、９日の朝、夜露と香りのしみこんだ綿で体を拭いて若さと長命を保とうとした、と伝えられています。

奥山　平安時代から行われているのですね。

宮前　はい。重陽の節供は、五節供のひとつで、昔は五節供の中でも最も盛んに行われていましたが、時代と共に衰退してしまったそうです。

奥山　そうなのですね。それはどうしてですか？

宮前　その理由を調べてみると、旧暦の９月９日は今の 10 月中頃にあたり、まさに菊の美しい季節でしたが、今の９月９日は、まだまだ暑く、秋らしさを感じ始めるくらいで、菊も盛りではなく、旧暦が新暦にかわって季節感が合わなくなり、次第に廃れてきたとも言われているようです。他にも、新暦の９月９日では、農家にとっての農繁期であり、収穫祭などの他の行事が優先されたという理由もあるそうです。

奥山　カグヤの「むかしの田んぼ」も収穫時期ですね。

宮前　行事は、季節や自然に沿っていますから、旧暦が新暦にかわったことで、どうしても違和感が出てくるものですね。ただ、それによって豊かな行事が廃れ、次世代に継がれなくなるのは、勿体ないことのように感じます。ちょうど「菊の節供」ということで、「菊＝聞く」から、お年寄りの更なる長寿を願うだけでなく、先人の言葉を聞き、教えに耳を傾けて、先人の智慧から、現代の在り方を見直したり、自分の生き方

一茎一花（いっけいいっか）
菊花は一つの茎に一つの花を咲かせます。

や優先順位を整える機会にもできたらと思います。

奥山　重陽の節句はそういった謂われがあるのですね。

宮前　また、「九」という数は、日本では「苦」に通じると忌まれていますが、陰陽思想では最高の陽数、満ちて極まった数であり、天を表す数として、神聖視されていたそうです。月にも日にも「九」が重なる九月九日は、重陽（陽が重なる）、重九と呼ばれ、非常に喜ばしい日として、祝われるようになったといいます。

奥山　数字にも深い意味があるのですね。季節が巡ってくる中で室礼を行う際、大切にしている姿勢はありますか？

宮前　どの季節においても根底にあり大事にしているものは、旬のものを頂けるという自然の恵みや、神仏、ご先祖様からの見守りへの感謝です。お供えをして「皆が元気でいられますように」と願い直来をして･･･ということは、暮らしの中にあるものだからこそ、１年やったから終わりというものではなく、毎年ずっと続くことだと感じます。暮らしに取り入れられるものだから、習わないで行うこともできるのでしょうが、今はお稽古がとても楽しく学ぶことが多いです。これがいい循環になっていて、お稽古が無かったら維持できるかなと心配もあります。

奥山　私も室礼の盛物が毎月変わることで季節の巡りを感じています。

宮前　今は旬が分からなくなって来て、ピンと来なくなっているように思います。いつでも食べられる幸せもありますが、その時期しか食べられない幸せというものもあるように思います。

奥山　本当にそうですね。旬というのが分かりづらい時代なのかもしれませんね。今後やってみたいことなどはありますか？

宮前　「菊尽くし」という言葉があり、来年は菊の絵を描いて掛け軸に飾ってみたいと思っています！

奥山　それはいいですね！来年の「重陽の節供」が今から楽しみになりました。ありがとうございました。

●過去のバックナンバー

第１２９号
第５１回保育環境セミナー後編
第１３０号
ＧＴサミット２０１９前編
第１３１号
ＧＴサミット２０１９後編
http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/

caguya
〒161-0023
東京都新宿区西新宿 3-2-11　新宿三井ビルディング２号館 10 階
Tel:03-5909-7155
毎週月曜日に配信しています。
ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ　奥山卓矢

ミマモルジュメールマガジン

メールマガジンのご登録は、
ＱＲコードからお願いします。